

〈 改善報告書検討結果（武蔵大学） 〉

[1] 概評

2014（平成26）年度の本協会による大学評価に際し、貴大学に対して、改善勧告として1項目、努力課題として6項目の改善報告を求めた。これを受けて、貴大学では、大学執行部にて改善方策を検討するとともに、各部局組織等において計画的に課題改善に取り組むよう「認証評価課題シート」を作成し、進捗状況を毎年、学長に提出するよう義務付け、「大学評価実施委員会」にてその進捗状況を確認していくこと等により、改善活動に取り組んでいる。また、2018（平成30）年度には、内部質保証の推進に向けて、学長を委員長とする全学の内部質保証の推進に責任を負う組織として「内部質保証委員会」を設置した。今回提出された改善報告書からは、貴大学が、これらの改善勧告及び努力課題を真摯に受け止め、意欲的に改善に取り組んできたことが確認できた。ただし、改善勧告、努力課題として指摘した、以下の事項に関して、引き続き一層の努力が望まれる。

まず、改善勧告については、学生の受け入れ（改善勧告No.1）に関して、経済学部金融学科の過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均は1.21と改善したものの、収容定員に対する在籍学生数比率は1.25と依然として高いので、さらなる改善が望まれる。

つぎに、努力課題として指摘した、学生の受け入れ（努力課題No.5）に関して、収容定員に対する在籍学生数比率が、経済学研究科博士前期課程で0.25、同博士後期課程で0.07、人文科学研究科博士前期課程で0.31及び同博士後期課程で0.25となっており、経済学研究科博士前期課程を除き、若干の改善がみられたものの、依然として低いので改善が望まれる。なお、大学全体（学部）、経済学部、人文学部、経済学部経済学科、同学部経営学科、人文学部英語英米文化学科及び同学部日本・東アジア文化学科では、大学評価時に提言の対象ではなかった収容定員に対する在籍学生数比率が高くなっており、経済学部経済学科、同学部経営学科及び人文学部日本・東アジア文化学科では、過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均についても高くなっているため、改善に努められたい。

以上の事項について、引き続き検討を重ね、より一層の改善に尽力し、貴大学が、その目的の実現のために、不断の改善・改革に取り組むことを期待したい。

[2] 今後の改善経過について再度報告を求める事項

なし

[3] 各指摘事項に対する改善状況

1 努力課題について